

NEWSLETTER

発行/芝浦工業大学 DE&I推進室 Diversity Equity and Inclusion Promotion Office, SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

DE&I推進室長挨拶

芝浦工業大学 副学長 DE&I推進室 室長 磐田 朋子

2023年10月に男女共同参画推進室からDE&I (Diversity, Equity & Inclusion) 推進室へと名称を変更してから1年以上が経過しました。本学では、多様な学生・教職員一人ひとりが安心して学び、働くことのできる環境づくりを目指し、DE&I推進に取り組んでいます。

本年度は「芝浦工業大学 DE&I 中長期計画(2025～2030年度)」を策定し、多様な学生・教職員がDE&Iの正しい知識を持ち、インクルーシブな行動を実践できるよう、意識と行動の変容を促すこと、ならびにダイバーシティ促進に向けた取組みの継続と拡充を方針に掲げ、取組みを開始しました。

また、本学が展開している多様なライフイベント支援策について、学内のみならず学外にも分かりやすく情報発信するため、ホームページの整備にも着手しています。さらに、大宮キャンパスでは、竣工した創発棟内に本学として初めてオールジェンダートイレを導入しました。今後も、すべての学生・教職員が安心して学び、働くことのできる環境整備に努めてまいります。

男性リーダーの会リーダーミーティング参加報告 & 学長からのメッセージ

本学の山田学長は、内閣府男女共同参画局が主催する第13回「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」リーダーミーティング(2026年1月15日(木))に参加しました。本会は、社会の意思決定層にある男性リーダーが、男女共同参画や多様性推進について率直に意見交換を行う場として開催されています。

グループディスカッションでは、理工系分野における女性人材不足の解消を本学の重要課題の一つと位置づけ、女子高校との連携、女子学生を対象とした入試制度や奨学金による支援、さらに大学院進学や卒業後のキャリア形成までを見据えた一貫した取組みについて紹介しました。

山田学長からは、「理工系分野の発展には、多様な人材が安心して学び、能力を発揮できる環境づくりが欠かせません。本学としても、教育・研究の現場からDE&Iの推進に継続して取り組んでいきたいと考えています」とのメッセージが述べられました。

本学では今後も、こうした対話の場への参画を通じて、多様性を尊重する大学づくりと社会への発信を進めていきます。



第13回リーダーミーティング

SWCC × 芝浦工業大学 × ヤンマー特別講演会

「DEI × 技術がイノベーションを創出することを体感しよう！」
および体験型ワークショップ

2025年12月5日、本学は2023年12月13日にDE&I推進に関する包括連携協定を締結しましたSWCC株式会社と、特別ゲストにヤンマーホールディングス株式会社を迎え、「DEI × 技術がイノベーションを創出することを体感しよう！」特別講演会および体験型ワークショップを豊洲キャンパスで開催しました。

特別講演会では、磐田朋子副学長、SWCC株式会社代表取締役会長・長谷川隆代氏、ヤンマーホールディングス株式会社取締役・白藤万理子氏が登壇しました。立場や専門分野が異なる人材が意見を交わすことで、一人では思いつかない新しい発想が生まれるという視点を踏まえ、DE&Iがイノベーションにつながった実体験が紹介されました。また、研究や現場での経験を交えながら、多様な人材と協力し、違いを強みに変えていく重要性が共有されました。

後半のパネルディスカッションでは、SWCC株式会社およびヤンマーホールディングス株式会社の技術者4名が登壇し、異分野・異世代の協働や失敗からの学びについて意見が交わされました。本イベントには、対面・オンラインを含め計157名が参加し、多様性がもたらす価値への理解を深める機会となりました。

体験型ワークショップでは、SWCC株式会社によるVR技術の応用事例体験や非接触給電によるミニ四駆実験を実施したほか、生成AIを活用して未来を構想するプログラム、両社の保有技術を紹介する展示ブースを展開しました。



左から磐田朋子副学長、SWCC株式会社代表取締役会長・長谷川隆代氏、ヤンマーホールディングス株式会社取締役・白藤万理子氏

特集 「育児と仕事の両立を考える」～正解がないから面白い?～

研究に正解を求めるのは日常ですが、育児には「これをやればOK」という数式も定説もありません。昨日まで有効だった「寝かしつけのライフハック」教職員の方々。本学は皆さんが抱えるその「正解がないから面白い」の裏側にある本音——「正直、めちゃくちゃ大変!」「もっと研究に没頭したいけど、「正解がない」ことを楽しみ、そして健やかにキャリアを積み上げていける大学であるために、本学が掲げる決意と、皆さんの盾となり剣となる支援制

が、今日は全く通用しない。そんな予測不能なカオスの中で、日々、研究・教育・業務、そして「親」としての任務を必死にスイッチしながら奔走しているお迎えの時間が…」という葛藤を、個人の根性論だけで片付けたくはありません。解決できない育児の悩みは、制度と環境で解決していく。度、活動の紹介、そして同じ道を歩む仲間生の声をお届けします。

誰もが働きやすい職場づくりへ

本号では、「育児と仕事の両立を考える」をテーマに特集を企画しました。芝浦工業大学では、教職員一人ひとりが安心して子育てと仕事、研究を両立できるよう、日々、環境づくりに取り組んでいます。

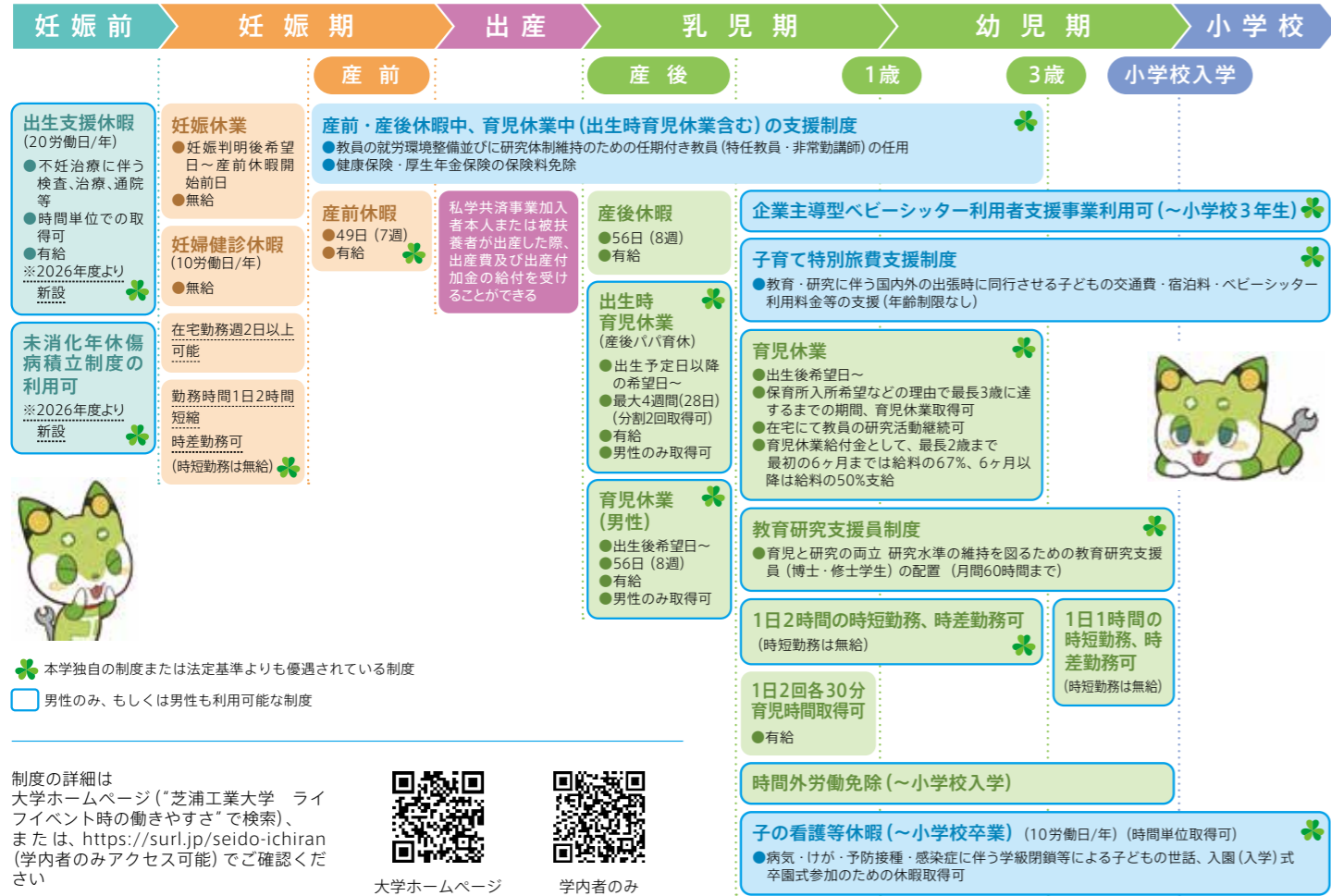
本学では、法定基準よりも手厚い制度や本学独自の制度を設けるとともに、男性のみ、あるいは男性も利用可能な制度を整えることで、多様なライフスタイルや働き方に対応できる体制づくりを進めています。性別や立場にかかわらず、誰もが育児に主体的に関われる環境の実現を目指しています。

また、制度の整備だけでなく、育児への理解を深め、互いに支え合える職場風土の醸成も大切にしています。男性の育児参加についても、周囲の理解と協力のもと、安心して育児と仕事を両立できる環境づくりに努めています。

こうした取り組みは、現在育児中の方だけのためのものではありません。誰もがそれぞれのライフステージに応じて柔軟に働き続けられる職場を実現することは、私たち一人ひとりの働きやすさにつながるだけでなく、芝浦工業大学が社会から信頼され、選ばれ続ける大学としてのブランド力を高めることにもつながると考えています。

今後も、子育て支援のさらなる充実と、より働きやすい環境の実現に向けて取り組んでまいります。本特集が、日々の働き方や職場の在り方について、改めて考えるきっかけとなりましたら幸いです。

専任教職員が妊娠・子育て時に利用できる主な制度



両立支援制度 利用体験報告

育児制度を利用して

工学部 物質化学課程担当 芹澤愛

産休・育休の取得にあたり、まず心配だったのは、研究室運営や授業をこれまで通り円滑に続けられるかという点でした。そこで、早い段階からコース長の先生や人事課、研究推進室の方々に相談し、一つ一つ丁寧に調整を進めました。授業は非常勤の先生にご担当いただき、研究指導については学科内の先生方のご協力を得ながら、オンラインや添削を活用して継続できました。実際に制度を利用してみて感じたのは、周囲の理解と本学の支援の心強さです。先生方や学生から頼もしくも温かい言葉をかけていただく場面も多く、大変励みになりました。



産後は、育児と仕事を両立する上で企業主導型ベビーシッター利用者支援制度が大きな助けとなりました。復職後も試行錯誤の日々ですが、育休を経験したことで、無理をしすぎず周囲と助け合う働き方を意識するようになり、長期的な視点で仕事と向き合えるようになったと感じています。若手教員の皆様には、ぜひ早めに相談し、制度を前向きに活用してほしいと思います。

企業主導型ベビーシッター利用者支援制度とは?

私学共済に加入する本学教職員が、こども家庭庁に認定されたベビーシッターサービスを利用した場合、1回につき最大4,400円 (2026年度は4,600円の予定) の補助が受けられます。

対象は乳幼児から小学3年生まで (障害等がある場合は6年生まで) です。配偶者の就労、病気療養、求職活動、就学、職業訓練等、又はひとり親家庭であることにより、サービスを利用しなければ就労が困難な状況にある場合にご利用いただけます。家庭内保育のほか保育施設への送迎にも利用可能です。

子育て特別旅費支援制度利用体験について

工学部 電気電子工学課程担当 當麻浩司

他大学の教員である妻と同じ国際学会で発表の機会があったため、小学生の子ども2人を連れて欧州へ出張しました。両親ともに長期間家を空けることが難しい状況でしたが、本制度のおかげで「家族で行けば大丈夫」と思い切って決断することができました。



学会の行われたスペイン・タラゴナ

欧州滞在中は、妻と交代で子どもたちを見守りながら学会発表やセッションに参加し、その後の研究所訪問も含め、家庭の事情から出張を断念せずに研究活動を継続できました。子どもたちが研究現場を目にする場面もありましたが、何より家族がそばにいる安心感のおかげで、落ち着いて発表や議論に臨めたことが印象に残っています。

本制度は費用面の負担軽減にとどまらず、研究と子育ての両立を現実的に支える心強い仕組みだと実感しました。他大学ではあまり耳にしない制度でもあり、本学の先進的な取り組みを改めて誇らしく感じます。今後も多くの研究者を支える制度として、継続的な発展を期待しています。

子育て特別旅費支援制度とは?

教員のみなさまが教育や研究のために国内・海外へ出張される際、どうしてもお子様を連れて行かなければならない場面はありませんか? そんな時に、お子様の旅費をサポートするのが子育て特別旅費支援制度です。

外部資金、研究奨励費、または学部課程学科の教育研究費から支出いただけます。

※外部資金や研究奨励費を充てる場合は、あらかじめ配分機関によって子育て特別旅費の支出が認められている必要があります (科研費からの執行はできません)。

「育児と仕事の両立を考える」オンラインセミナー開催 2025.10.29

育児と業務の両立に向けた支援体制の充実を目的としたオンラインセミナーを開催しました。当日は、実際に育児と業務の両立を経験された教員による体験談の共有や、学内の支援制度の紹介を行い、多くの教職員にご参加いただきました。

研修後のアンケートでは、9割以上の参加者から「学内の育児支援制度について理解が深まった」「制度利用者の体験談が制度を具体的にイメージするのに役立った」との回答をいただきました。また、「育児中の同僚へのサポート方法がイメージできた」「研修を受けてよかった」という声も多数寄せられ、当事者だけでなく周囲の理解促進にもつながったことがうかがえます。今後の支援策として、子どもの病気・発熱時の支援や保育園・学校の休園・休校時対応のニーズが高いことも明らかになりました。





代表挨拶 工学部 情報・通信工学課程担当 金丸真奈美

Shiba-jo プラチナネットワークは、女性教職員、在学生、卒業生が世代を超えて交流し、キャリア形成やワークライフバランスの知恵を共有するプラットフォームです。工学の学びがキャリアや将来のライフイベントとどう結びつくのか、具体的なイメージを持てる場を提供するとともに、卒業後も気軽に相談できる環境づくりに取り組んでおります。

2025年度はイベント開催頻度を上げることを目標に、今までのイベントはそのままに、まず教職員向けのランチ交流会を大宮・

豊洲の両キャンパスで開催いたしました。所属の垣根を超えて情報共有する機会が得られ、有意義な時間になったと自負しております。また、今後は在学生が親しみやすい趣味の会やオンライン企画も拡充し、より日常的な繋がりを深めていく方針です。

Shiba-jo の活動には多様な経験を持つ卒業生の皆様の力が欠かせません。ぜひ異なる世代の女性たちと交流し、ご自身のキャリアやプライベートについて相談する場としてご活用ください。

女性教職員ランチ会報告

2025年5月9日(金)に大宮キャンパス、5月16日(金)に豊洲キャンパスにて女性教職員を対象にランチ会を開催しました。また、10月3日(金)にはzoomで両キャンパスを接続して豊洲・大宮両キャンパスにてランチ会を同時開催しました。参加者はのべ20名でした。それぞれ持ち寄りのお昼ご飯を手に、所属の垣根なく、普段の業務での困りごとや大学の制度について相談しあい、和気あいあいとした雰囲気でのランチ会となりました。

オープンキャンパスにて「理系を選択した先にはどのようなキャリアがあるのか」をテーマに、女子高校生対象のトークセッションと座談会が開催されました。会場には個別相談のブースも設けられ、事前募集に応じ集まったShiba-jo プラチナネットワーク会員の現役学生と卒業生が、女子高校生からの個別の質問に答え、女子学生の日常や現在のキャリアまで、等身大の経験を語りました。

個別相談は途切れることなく盛況で、「女子が少ないことの不安が解消された」「入試やキャリアについて本音が聞けて参考になった」との声が寄せられました。

2025年7月・8月 オープンキャンパス協力



2025年10月11日 Shiba-jo座談会報告

豊洲キャンパス本部棟にて「Shiba-jo プラチナネットワーク座談会」が開催され、卒業生・学生あわせて計13名が参加しました。6名の卒業生による自己紹介からスタートし、その後はグループに分かれて25分ずつの2タームにわたって交流しました。進路や社会人生活、仕事の現場のリアルな話題まで、先輩である卒業生にざっくばらんに質問が投げかけられ、参加者それぞれが多くの学びを得る時間となりました。学部1年生から博士課程の学生、そして教員や幅広い世代の卒業生が一堂に会したことで、共通の話題を見つける難しさもありましたが、それ以上に異なる視点を持つ「芝浦の女性」がつながる大切な機会となりました。



2025年10月11日 Shiba-jo懇親会報告

豊洲キャンパスにてShiba-jo プラチナネットワーク懇親会を開催し、18名が参加しました。磐田室長による開会挨拶の後、金丸真奈美代表から活動報告が行われ、続いて参加者全員が自己紹介と近況報告をしました。身近な話題を交えたやり取りが続き、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。また、次年度の懇親会についても意見交換が行われ、今後のつながりを深める有意義な機会となりました。同日夕方からは、豊洲キャンパス向かいの「青蓮」にて14名による食事会を開催。会話も弾み、終始笑顔の絶えない賑やかな場となり、学生・卒業生・教職員が垣根を越えて交流を深めました。



芝浦工業大学の女子学生、女性卒業生・教職員の皆様

あなたも Shiba-jo プラチナネットワークの会員になって芝浦女子を盛り上げていきませんか。

Shiba-jo
プラチナネットワーク
会員絶賛募集中!



Shiba-joプラチナネットワークとは
URL: <https://surl.jp/aboutShiba-jo>

お申込みは
こちら

